

Bike 自転車

Eバイク(オーナー:上野茂氏)

ROMAN(ローマン)のクロモリフレームに、イタリアのカンパニョーロ社製電動変速機を搭載。カンパニョーロ社は外装変速機開発における草分け的存在。現在でも外装変速機の主流であるパンタグラフ式変速機は、当社の発明である。自転車進化における電動の試みは、良くも悪しくも現在のトレンドであり、今後もその流れは続くであろう。電動の無線化、バッテリーの小型軽量化など技術進歩によって、Eバイクはさらにスマートになっていくであろう。また、電動変速機のみならず電動アシスト付き自転車もかなり普及してきている。上野茂氏は現在でも一日で100キロ以上の距離をサイクリングしているが、80歳になったら、電動アシスト用のROMANフレームを作る予定だそうだ。Eバイクは年齢、性別、体力等の格差を小さくし、ロハスな暮らしにおけるユニバーサルデザイン化につながるのではなかろうか。

Mバイク(ミサのミキストバイク)

ミキスト自転車とは、トップチューブを細い2本のチューブにしてハンドルから後輪までをつないだ形状の可愛い自転車である。ただしこのMバイクはバックのみ2本でつないでいる。ミキストの長所は、小柄な女性でもスカート姿で自転車に乗ることが容易であることだ。足をしっかり着地してもフレームが邪魔をしない。さらにスローピングフレームの形状に慣れてきた昨今では、前上がりのミキストに対する違和感は、以前よりも薄らいできたといえよう。ところで、我家の環境はカントリーだが、都会の暮らしにもミキストはしっかり溶け込む。実用車(いわゆるママチャリ)ではなく、かといって先鋭的なロードバイクやマウンテンバイクでもない、大人のエlegantなミキスト自転車はいかがですか?ちなみにミキストならば、中学生や高校生が自転車通学しても超お洒落! ライフステージが変わっても買い換え、使い捨てることなく、一生付き合える自転車です。

Sバイク(シングル・スピードバイク)

自転車にとって必要最小限を追求し、タケノコが辿り着いたのがSバイク。必要最小限とは簡素美、機能美の追求であると同時に、「たった一台の自転車で暮らす」といった質素ミニマルなライフスタイルの追求でもある。レースで競い合うのでなければ、このSバイク一台で生活全般をこなすことを想定した。フェンダー(泥除け)やフロントバック用ステンレスキャリアは必要最小限なパーツと考えた。雨の多い富山県で簡易フェンダーを後付けするくらいなら、最初からフェンダーを自転車全体のデザインに組み入れた方が機能的であり、かつお洒落。また、荷物を担いで走ると背中が不快。だから荷物は自転車に委ねるのがスマートなのではなかろうか。

クロモリフレーム

クロモリとは、クロムモリブデン鋼の略称である。鉄にクロムとモリブデンが添加されたもの。自転車フレームの代表的なスチール素材である。スチールは自転車のフレームとしては長い歴史を持つ素材で、実用車を始めロードバイク、マウンテンバイクなど、ほぼ全ての種類の自転車に用いられる。重量の点を除けば、強度や振動吸収性など、自転車フレームとしては最も理想的な素材の一つである。競技用フレームとしては軽量のカーボンフレームに取って代わられたが、強度や耐久性が重視される車種においては、最もポピュラーな存在であり続けている。(参考:ウィキペディア)